令和元年度　先進地研修委員会　視察報告書

先進地研修委員会（古下義隆委員長）の視察研修は、総勢３３名の方にご参加頂きました。

令和元年度より国際交流委員会の名称を国内外問わず先進地事例を研修する事を目的にする為、先進地研修委員会と変更をしました。第一回目の研修先としまして、十二月六日から八日の二泊三日で九州を選定し、国華園宮崎農場、えびの市役所表敬訪問、明石酒造そして湯布院の街づくりの講演などを研修しました。

まず最初に訪問したのは、えびの市役所でした。企業立地係の渡邉係長からえびの市の概要について説明をして頂きました。えびの市の人口は１万８千人で宮崎・熊本・鹿児島の南九州のほぼ真中に位置し面積は２８２.９３㎡で和泉市の3.3倍の広さがあります。主な産業は農・林・畜産業と観光産業ということでしたが近年九州自動車道のえびのインター付近に17.3ヘクタールの産業団地を開発し令和三年より分譲するとの事で市では、用地取得助成金や建設助成金など各種インセンティブを考えていると言っておられました。係長の話の後、市長より挨拶を頂き自然が豊かなえびの市に多くの観光客が来てもらえる様、市の施策を考えているとの事でした。又、えびの市は宮崎牛やひのひかりといった特産品があるので８億円程度のふるさと納税寄付金が集まり和泉市としてはうらやましい限りでした。

えびの市 村岡市長

えびの市役所 表敬訪問

国華園　宮崎農場　視察

国華園　宮崎農場　視察

国華園　宮崎農場　視察

国華園　宮崎農場　研修

次に訪問したのは、岸脇名誉会頭の国華園宮崎農場でした。えびのインターを降りてすぐの所に農場があり、立地場所はすごく良い所でした。２万坪の農場を有し、ビニールハウスと配達センターが数棟建っていました。まずは、事務所に寄せて頂き岸脇名誉会頭より宮崎に農場を取得した経緯についてお話をして頂きました。岸脇名誉会頭も当初は、商工会議所等の視察で九州を訪問した際、土地の価格の安さと人件費の安さに驚かれインターチェンジが近くにあって全国に配達する便の良さからこの地を取得したとの事でした。そして現在この場所では、海外から輸入した商品を全国に配送する作業を主に行っているとの事でした。又和泉市の本社との会議はインターネットで行っており最先端の通信技術を取り入れた経営をされておられました。

次に視察をしたのは、えびの市で焼酎の製造を行っている明石酒造に伺いました。明石酒造は、明治２４年創業で老舗の酒造会社です。代表銘柄は「明月」で満月の様にまあるく明るく円満にそして平和にとの願いで、えびの高原に群生する赤松にかかる満月を表しているとの事でした。「心まで酔わせるような焼酎を造る」を目標に伝統と豊かな技術・丁寧な造りを心がけて造られた焼酎に参加者の皆様は舌鼓されたくさん購入されていました。当日は、代表取締役でえびの商工会の前会長でもいらっしゃる明石秀人代表取締役に焼酎造りを説明して頂き仕込み蔵を見学させて頂きました。

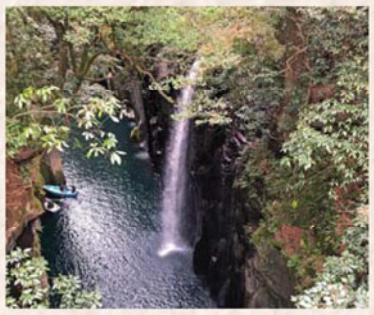
それから一行は、坂本龍馬が日本で初めての新婚旅行で参拝されたという霧島神宮に向い樹齢８００年の御神木や神殿に参拝しパワーを頂きました。この日は、霧島温泉に宿泊しました。

国華園　宮崎農場

二日目は、湯布院に向う途中高千穂峡に立ち寄りました。

ここは、大昔に阿蘇の火山活動で噴火した火砕流が、五ヶ瀬川に沿って流れ出し、急激に冷やされた為に出来上がった峡谷で国の名勝天然記念物に指定されており、17mの高さから流れ落ちる「真名井の滝」が最も有名です。

次に高千穂神社では、参加者全員が神主よりお祓いを受け商売繁盛の祈願を頂きました。又天岩戸神社では、天照大神がお隠れになられた天岩戸に特別に参拝をさせて頂きました。一行はやまなみハイウェイを通りこの日は湯布院温泉に泊まりました。


真名井の滝

明石酒造　製造工場内

明石酒造

霧島神宮

玉の湯　桑野社長

三日目は、本研修の目的でもある「由布院のまちづくり」について老舗旅館玉の湯の代表取締役桑野和泉社長より講演を頂きました。由布院は、大分県のほぼ中央に位置し、温泉街は歓楽街を廃した町並が特徴で「東の軽井沢、西の湯布院」といわれ、他の温泉街に見受けられる大規模な旅館が存在しないのもこの町の特徴です。人口は１万人足らずであるがここに観光客が実に３８０万人訪れる人気の温泉地です。大正時代に亀の井ホテルの創業者で油屋熊八が由布院を最初に温泉保養地としてこの地を開拓しました。昭和４０年頃まではひなびた温泉であったが、行政そして温泉組合・住民が町ぐるみで「街づくり」を考えヨーロッパのスイスのツェルマットの街を視察したり滞在型の保養温泉づくりをどの様にしたらよいかを研究し、毎年映画祭や音楽祭を開催したり、各旅館の料理人達の勉強会を開いたり色々な由布院ブランドを高める為の工夫がなされたとの事です。又、潤いのある町づくり条例を行政が決定し、１０００㎡を超える宅地の造成や高さ１０mを超える建築物の規制を行なうなど大型の開発を極力抑え保全活動との調和を行ってきました。その結果、由布院の町並や環境が守られて、安定的な観光客の集客がなされる様になりました。しかし、近年インバウンドにより外国人観光客が増加し、オーバーツーリズムの問題が発生し、全国展開しているナショナルチェーンの店がメイン通りに出店するなど他の観光地と同じ店が並ぶといった様々な問題をかかえているとのことでした。由布院コンセプトは「豊かな暮らしと交流が共存する滞在型保養温泉地」ということで、今後の由布院の持続可能な温泉地の街づくりを考えていかないといけないと言っておられました。

講演を頂いた後、実際に玉の湯を訪問させて頂き、先代の社長様で現在は会長の溝口薫平様にお逢いさせて頂きました。

一行は昼食を別府でとった後、１２００年前に出来たと言われる海地獄を見学し、大分空港より帰路につきました。

山本会頭　謝辞

街づくり研修会

街づくり研修会

海地獄

高千穂神社